

## 令和5年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日時：令和5年8月7日（月）

午前10時00分から

場所：市役所4階 大会議室

### 【配付資料】

- 資料1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
- 資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱
- 資料3 地方創生推進交付金事業評価・検証シート【令和4年度実施分】
- 資料4 津島市の人口動向について
- 資料5 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
- 資料6 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連事業(令和5年度)
- 参考資料 市政のひろば等抜粋  
第5次津島市総合計画概要版

## 開会

### 市長挨拶

(市長)

津島市では、人口減少、少子高齢化などの様々な問題に立ち向かうために、本市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版総合戦略「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第1期を平成27年度に、第2期を令和3年度に策定し、事業を戦略的かつ効果的に展開している。

本日の委員会では、第2期の総合戦略の進捗状況について報告させていただく。

第2期の総合戦略は、市の最上位計画「第5次津島市総合計画」と一体で策定しており、本日お配りしている総合計画の概要版の5ページ以降のとおり、戦略1「子どもを産み育てやすい環境をつくる」、戦略2「まちの活力を高め、人の流れをつくる」、戦略3「支えあい、安心して暮らせる地域をつくる」について、関係各課・関係団体が連携して実施することによって、総合計画全体の着実な推進を図っているところである。

また、津島市の財務体質は、市の貯金にあたる財政調整基金の残高が増加し、市の実質的な借金にあたる市債残高が減少するなど、大きく改善しており、着実に安定してきた。今後についても、行財政改革に不断に取り組み、「市政の持続」を常に意識しながら、成長投資をさらに進め、津島市の「価値」を高めていく。

委員の皆様には、外部の方の視点で、忌憚のないご意見等をいただけるようお願い申し上げます。

## 出席状況の報告

### 資料確認

## 委員長挨拶

おはようございます。本委員会は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、津島市の実情に応じた具体的な施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進する、ないしは情報共有を目的に実施するものである。

本日は、国の「地方創生推進交付金」を活用した事業の成果や、「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての進捗状況等を説明していただくので、ご意見を頂戴したい。

それでは「(1) 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について」を議題とする。地方創生推進交付金を活用した事業の進捗や成果、内部評価等について、事務局から説明していただき、その後、各委員から意見を頂戴したい。

まず初めに資料3「地方創生推進交付金事業 評価・検証シート【令和4年度実施分】」の2ページ、「住んでよし！訪れてよし！津島 Style③創出事業～ハピネス津島大作戦！～」について事務局から説明をお願いしたい。

## 議題 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について

### 事務局より説明（資料3）

（委員長）

2つの事業について説明があった。食品ロスについては、各市町村も悩んでいる中で、事業に取り組むというのが有意義であると思う。今後どうしていくかがポイントである。事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

（委員）

昨年、市制75周年記念の天王川公園でのウォーキング大会には多数の市民が参加した。イベントとアイデアを合わせてもらえると市民の参加がしやすいと思う。また、「これってステップ?! コンテスト」には動画を作成して、参加させていただいた。楽しくて笑いが絶えない会になっていたと思う。多数の市民を巻き込むことの重要性を活動の中でも日々感じている。ウォーキングの会を毎月実施しているが、コロナ前はケーブルテレビから取材が来るほど、多数の市民の方に参加してもらっていたが、コロナで中断してしまった。今年から市民協働課で団体登録をし、チラシを置かせてもらっているが、市役所にはチラシがかなり残っていたので、PRが難しいと考えている。今後の事業の課題として、健康に無関心な方にどうやってアピールしていくかということを考えていただきたい。

（委員長）

委員から発言があった中で「楽しく」というところがポイントである。こういった事業はやらされ感が出てくると、長続きもしないし、苦痛になってしまう。そう

いう中で、実際参加すると楽しかった、盛り上がったという意見、報告があったが、いかにして「楽しさ」を盛り込んでいくか、仕掛けていくかというところがポイントになると思う。

(事務局)

昨年度の市制 75 周年記念事業である天王川 750 周をみんなで歩くという事業は、大盛況のうちに終えることができた。委員がおっしゃるとおり、どうやって健康づくりを市民に取り組んでもらうか、いかにきっかけを提供できるかというところがポイントであると思う。今回の「これってステップ?! コンテスト」についても、これを今後どのように市民の方に活かしていけるか考えながら、3年間の事業としてウォーキングコースやウォーキングマップを作成し、イベントを通じて皆さんに参加してもらい、健康づくりに取り組んでもらうことを目指したいと考えている。

(委員)

食品ロスマッチングサービスのタベスケは、まだまだ知名度が低いと思う。積極的にアピールしてもらい、市民がタベスケを認識してもらえる状態にしていきたいと思う。

(事務局)

食品ロスサービスのタベスケが市民に浸透するように、引き続き啓発を続けていきたい。

(委員長)

それではこの議題はここまでとして次に移らせていただく。

## 議題 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

事務局より説明(資料4、5、6)

(戦略1・子どもを産み育てやすい環境をつくる)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

子育て支援に関して様々な補助があるが、給食費の無償化は大変ありがたいと思う。また、地域学校協働本部のコーディネーターとして支援をさせてもらっているが、令和4年度、全小学校にコミュニティスクールが設置された。その中で学習支援に取り組んでいるが、今後の方針として、防災と連携できないかということを考えている。他の地域では実施しているところもあり、例えば避難所を開設するときに、中学生のボランティアに、避難所開設を手伝ってもらうことはできないか。地

域の高齢化が進んでおり、今までの担い手も大変であると思う。若い力で応援できれば思う。支援物資を配布する時なども、訓練の時に練習しておいて、災害があったときに中学生のボランティアが実施できれば良いのではないか。これを地域学校協働本部の中で取り組んでいきたい。

(事務局)

防災に関しては若い世代への啓発が大切であると思う。小中学校において、例えば VR を活用して水害や地震の疑似体験ができるようにする等、防災意識の啓発を地域学校協働本部の力を借りながら実施をしていければと思う。担当課の方には伝えさせていただく。

また、津島市は毎月第3日曜日を「家庭防災の日」ということで、家庭で防災について話し合ってもらって取組を実施している。生涯学習センターの施設の中にも自助・共助防災学習センターを設置しており、避難所の備品等も展示しているので、小学校や中学校と連携して今後も防災教育に取り組んでいきたい。

(委員)

中学生のボランティアの件については、危機管理課と社会福祉協議会と防災津島の会とで一緒に会議を実施しているが、ボランティア支援コーディネーターの本部の開設において、若年世代の参加を求めているという話が先日あった。中学生という話があって、防災というところで自分の頭で中学生までアイデアが無かったので、今後の課題として働きかけをしていきたい。

(委員)

良い機会なので、ファミリーサポートセンターの現状について話をさせていただく。子育てが苦手な家庭や発達に心配がある子どもを持った親などがファミリーサポートセンターに依頼するケースが増えている。ファミリーサポートセンターでは登録時や打ち合わせの時に、気になる家庭があれば、関係部署に繋いだりしている。サポート時の様子など、市と共有しながら、良い方向に導くことができていると感じている。

また、経済的に苦しい一人親や低所得世帯についてはファミリーサポートセンターの利用が難しいため、登録にさえ至っていないのが実情である。登録されても利用に至らない事例や電話でファミリーサポートセンターの内容の問い合わせがあっても、利用料の話をするとう電話を切られる事例、生活保護を受けているが料金は変わらないのかと聞かれ、助成が無いことを伝えると登録しても意味がないと言われる事例がある。経済的に余裕がある家庭のリフレッシュや習いごとの送迎に利用してもらうことも重要だが、本当に困っている家庭に支援の手が届いているのか、こうした家庭への利用料の補助が必要ではないかと思う。気づかないところで、子どもたちだけを残して親が外出するということが発生していないか。子どもの命の問題なので検討をお願いしたい。一人親や両親が精神的疾患を抱えている事例、子育て

てと介護を同時に抱えている事例など様々な困難事例の相談がある。ファミリーサポートセンターの利用料の補助以外に新たな事業を検討していただいてもよいので、このような家庭への支援をお願いしたい。経済的に困難であれば、一度相談してくださいという通知も有効ではないか。

(事務局)

そのような制度の隙間になってしまう方は行政としても見落としやすいので、ファミリーサポートセンターと情報共有を密にしながら、できることを検討していきたい。ファミリーサポートセンターの実施状況を確認すると、令和3年度は901件であったのに対して、令和4年度は1,094件と増加している。ファミリーサポートセンターのニーズも高まっているので、今後もより綿密な情報交換のもと事業を実施していきたい。

(委員)

委員会の設置目的に人口減少に歯止めをかけるとあり、かなり重要なウェイトを占めていると考えている。各種データから、人口減少の最大のファクターは非婚化率の上昇と考える。国の異次元の少子化対策もあるが、非正規労働者など将来の自分に自信が持てなくて、結婚を躊躇してしまうこと。これが最大のファクターだと思う。そこにメスを入れないといけない。国も市も本気で考えてほしい。

(事務局)

人口減少については、県も危機感を感じており、人口減少対策本部を立ち上げている。その中で人口減少に取り組む事業として、補正予算を組んで婚活事業を実施する予定である。県で実施する事業ではあるが、各地域で婚活のイベントをやっていくもので、津島市のエリアにおいても実施を検討している。そのような取組を津島市として進めていきたい。

(委員)

先程の人口減少のことに関わることだが、津島市は名古屋のベッドタウンであり、比較的安価で家を持つことができる。また、愛知、三重、岐阜にもすぐアクセスできる地域で、美しい川が流れており、自然も豊富なまちである。このような良い地域であるので、様々な工夫をすれば、人口を増やせると思う。企業誘致をして、若年層を集めることも重要である。

連合愛知も婚活活動を10年以上前から取り組んでいる。人口減少が問題になっているということで、毎年、年に2、3回行っている。中には婚活のパーティで何組かカップリングしたという実績もある。津島市が主催でも結構なので、活発に繰り広げてもらいたい。

貧困で、そういった人達に手が届かないという話があった。これに関連する話で、ヤングケアラーの問題がある。本来であれば学業、スポーツを楽しみたい世代が、

家庭の事情で様々な課題を抱え、自分を犠牲にしている人がいる。非常にデリケートな問題ではあるが、近隣で世話を焼いてくれる人達を増やして、助言、支援があると良いと思う。そのようなところにも目を向けて活動に取り組んでもらいたい。

(事務局)

ヤングケアラーという話もあったが、地域学校協働本部やコミュニティスクールでは、家庭と地域と学校と一体となって子どもたちを育てていく取組を実施している。その中でもヤングケアラーの問題というのは、津島市として状況を注視していく必要もあり、今後の課題と考えている。また、名古屋市のベッドタウンという話については、都会と田舎の両方の良い点を持つ「とかいなか」として、暮らしやすいまちということのアピールしている。そのようなことを効果的に発信しながら、暮らしやすいまちということで津島市に移り住んでいただくというきっかけになればと考えている。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

## 事務局より説明（資料5・6）

(戦略2・まちの活力を高め、人の流れをつくる)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

ハローワークの状況は、年齢が高い求職者が年々増えてきている。

特に、高年齢者はハローワークに仕事のあっせんを期待するが、高年齢者が応募できる求人は少なく、マッチングが厳しい状況にあるため、昨年度からシルバー人材センターと連携を密にしている。

ハローワークのエントランスに設置している高年齢者応援求人コーナーにシルバー人材センターのチラシを配架して、シルバー人材センターを案内している。

昨年度、ハローワーク主催の就職フェアを開催した際、シルバー人材センターのブースを初めて設置したが、これは労働局・ハローワーク主催の就職フェアでは初めてではないかと思う。その就職フェアでは、シルバー人材センターのブースで相談する求職者が一番多く集まったという結果だった。

これからも、高年齢者がワンストップで就職活動できるよう、さらにシルバー人材センターと連携を深めていく予定である。

今後、高年齢者の就職の場を確保するにあたり、津島市として高年齢者が活躍できる就業の機会があれば是非お願いしたい。

(事務局)

高齢者の就職という話について、市としては会計年度任用職員の求人をハローワーク経由でさせていただいている。比較的高齢の方も庁内の窓口で勤務していただいている。今後も応募していただき、マッチングすれば市としても任用していきたい。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

## 事務局より説明（資料５・６）

(戦略３・支えあい、安心して暮らせる地域をつくる等)

(委員)

防災の関係で、家庭防災の日の第３日曜日に、防災教室を前期と後期に分かれて今年６月、７月、８月と１２月、１月、２月と６か月間実施している。一般市民が対象で、身近なもので防災意識を高めようということで、昨年はコロナの関係で人員を削減したが、今年は応募が多数あり、１．５倍程度の応募があった。嬉しい悲鳴である。家具の転倒防止金具を取り付けると安心感があり、防災意識も高まると思う。貯水槽の学校への設置が進んでいるので、被災した時に地域の役に立つと思う。また、飛散防止フィルムの貼り付けも続けてもらおうと市民のために良いかと思う。

(事務局)

万が一災害が起きた時は、もちろん市としても様々のことを実施するが、やはり限界がある。自分の身は自分で守るという「自助」、地域で共に支え合う「共助」という取組も必要となってくる。先程発言いただいた内容も含めて啓発等、引き続き取り組んでいきたい。

(委員長)

全体を通して、意見・質問等があればお願いしたい。

特になし

(委員長)

それでは、質問等も尽きたようなので、議題「第２期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」は終了する。地方創生に関しては、津島市行政だけの頑張りでは難しく、住民の方の活動、関わりが重要になってくる。ぜひとも津島市の発展のためにご尽力をいただきたい。最後に市長から一言お願いしたい。

(市長)

貴重な意見を多数いただき感謝する。高度成長時代は、世の中について行けば一定の生活が保障できるという時代であった。それが人口減少に転じ、社会を支える人が少なくなっていくという状況である。国についても、地方が自立するような政策を自ら考え、これを実行するところには財源を振り当てている。津島市では職員の頑張りで、積極的に地方創生に資する事業やデジタル田園都市国家構想に資する事業にチャレンジして、様々な形で国からの財源の獲得に成功している。

一つ大きな問題はタウンミーティングの中で分かったが、広報紙を読む人が1割から2割ということである。分かりやすい広報紙を作成しても、ほとんど見られない。子育て世代には子育ての情報を流すなどセグメントごとに情報発信を行うなど、情報発信の仕方を変えないと届かない。このような中、それでも市は主体的に発信をしていかなければならない。毎日 Facebook、Instagram で発信している。そういうことをしないと若い世代に届かない。

また、2070年には人口が8,700万人になると推定がある中で、今ドイツの人口が8300万人、フランスの人口は6,800万人である。それを考えれば、日本も生き抜くことはできると考えている。多死社会で高齢者が多数亡くなり、少子化が進む社会で、どうやって地方が生き抜いていくか。成長をし続けるための投資が大事だと思う。10年前と比較して、人口は5,000人減ったが、税収入は2億円以上増えた。戦略的にまちの体質を変えながら、一人当たりの市民サービスの向上につなげていきたい。そのために徹底的な行財政改革を実施し、3年間で91億3千万円、市の貯金に当たる財政調整基金が2.8倍にもなった。

公共施設が設置から40年経過し、様々な部分で難しくなっている。それをスクラップし、統合していく。市民のご理解をいただきながら、果敢に実施をし、生き残っていきたい。

(事務局)

それでは、本日はこれにて閉会とする。お忙しいところありがとうございました。

**閉会**